

東洋哲学研究所の創立から半世紀を迎えるにあたり、貴研究所の創設の意義を、そして学問の発展と社会全体に対して果たしてこられた役割を再考したいと思います。今日の時点で振り返るとき、結論できるのは、半世紀前、貴研究所の創立者は大変な先見性をもっておられたということです。

今日、私どもが知っているとおり、現代世界は崩壊

## 「精神的空白を埋める」使命が

し始めています。「社会は、もはや後戻りできないところまで進んでしまった」ということが、ますます多く語られています。それに伴い、私たちはいよいよ頻繁に次のように自問するのです。「地球は、私たち人類という種がもつ進化の巨大な可能性に耐えられるのだろうか?」。すると直ちに次のように問うこととなります。「近代化」の目標や目的は、過ぎ去った20世紀にほと

んどが達成されたが、今やそれについて修正する時がきているのではないか?」と。

私たちは皆、知っています。近代性は「進歩」と「自由」の概念によって導かれていることを。しかし、進歩という方式はすでに機能しないことが知られていきます。今日では進歩は破壊的でさえあるのです。近代性のもうひとつの基本的概念である自由は、望むことすべ

## アクシニア・ジュロヴァ



創立者とジュロヴァ博士の対談集『美しき獅子の魂』のブルガリア語版(2000年刊)

会を与えるものと理解され続けています。こうして人間による支配は、均衡ある発展も倫理的な能力も伴うことなく、信じがたいほど増大しました。つまり私たちは「道徳的基礎を欠いた進



対談集の出版発表会。「この文明間対話は、ソクラテスの対話を現代に蘇らせる」(ソフィア大学パンテフ教授)などの評価が寄せられ、大統領、首相からもメッセージが(2000年11月17日、ソフィア市・国立文化宮殿)。同書は翌年の「ブルガリア最優秀出版物」にも選ばれた

歩」を目の当たりにしているわけです。

こうした経緯の結果として、私たちは「精神的空白を緊急に埋めなければならない」という必要性に直面

しています。

私たち全員がかかわっているこの新しい世界では、知識というものは信じられないほどの力をもっています。したがって、哲学ならびに哲学の研究所の役割は、より切実になっていくのです。そして、ますます必要になっていくのは、「信」への回帰であり、私たち自身への回帰なのです。

この意味において、東洋哲学研究所の役割はきわめて責任の重いものであり、「現代の諸問題を検討し、だれもがますます不安になりつつあるこの世界において、人々に人生への希望を鼓舞していく」という死活的に重要な使命を担っておられます。貴研究所が未来においても発展し続けることを希望し、その創立の理念を果たしゆかれることを願っております。

(Aksinia Djurova / ブルガリア・ソフィア大学教授)